



林兼産業株式会社

林兼産業株式会社

2013年3月期第2四半期 決算説明資料

決算概況と2カ年経営計画

2012年11月13日

I 2013年3月期 第2四半期実績

連結損益計算書の概要	・・・ 3
経常利益の増減要因	・・・ 4
セグメント別の売上高・営業利益	・・・ 5
貸借対照表の概要	・・・ 6
キャッシュ・フロー計算書の概要	・・・ 7
四半期業績の推移	・・・ 8
セグメントの状況	・・・ 9-11
今後の施策	・・・ 12-13
通期計画	・・・ 14

II 2カ年経営計画の進捗状況

2カ年経営計画の進捗状況	・・・ 16-17
--------------	-----------

III (参考資料) 2カ年経営計画(抜粋)

2カ年経営計画	・・・ 19
セグメント施策	・・・ 20-25
売上高・利益計画	・・・ 26-27



I

2013年3月期第2四半期実績

(百万円)

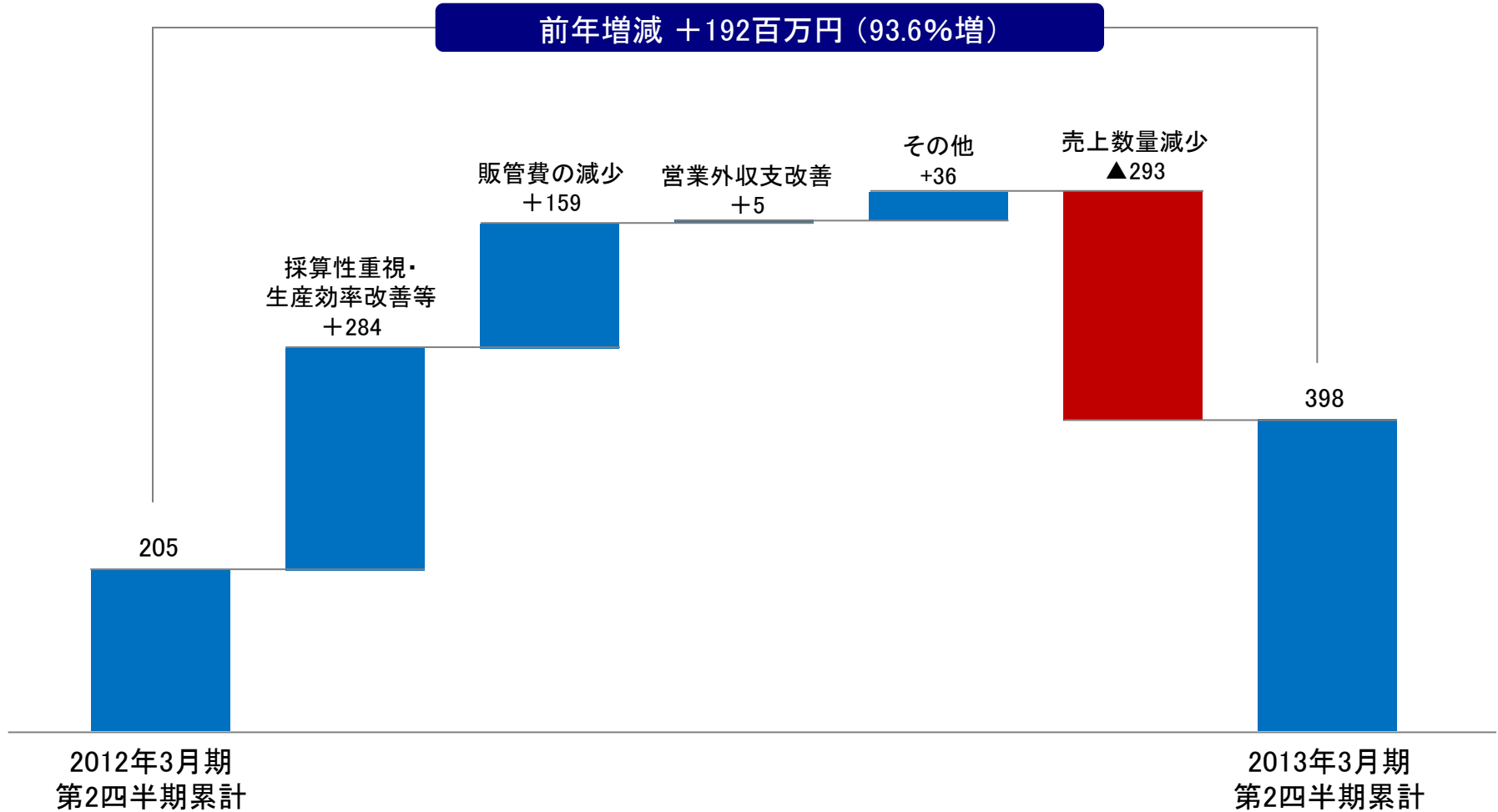
	2012年3月期 第2四半期累計	2013年3月期 第2四半期累計			
		実績	前年増減	当初計画	計画増減
売上高	24,684	22,722	▲1,962	22,800	▲77
営業利益	201	388	187	280	108
経常利益	205	398	192	220	178
四半期純利益	128	403	274	170	233

前期との主な変動要因

- 売上高** 畜産用飼料製造中止による減収
 採算性を重視した肉類の販売数量減
- 営業利益** 採算性重視・生産効率改善等による増益
 販管費等固定費の削減による増益

飼料事業の収益改善や固定費の削減等により増益

(単位:百万円)



セグメント別の売上高・営業利益

(百万円)

	2012年3月期 第2四半期累計	2013年3月期 第2四半期累計			
		実績	前年増減	当初計画	計画増減
売上高	24,684	22,722	▲1,962	22,800	▲77
水産食品事業	2,653	2,361	▲291	2,500	▲138
畜産食品事業	9,132	8,402	▲729	8,400	2
飼料事業	11,841	10,988	▲852	10,900	88
その他の事業	1,057	968	▲88	1,000	▲31
営業利益	201	388	187	280	108
水産食品事業	97	64	▲32	80	▲15
畜産食品事業	69	110	41	200	▲89
飼料事業	530	673	142	530	143
その他の事業	95	70	▲24	60	10
消去又は全社	▲591	▲530	61	▲590	59

(単位:百万円)

	2012年3月期末	2013年3月期 第2四半期末	
			増減
流動資産	12,496	13,726	1,230
固定資産	14,721	15,312	590
資産合計	27,218	29,039	1,821
流動負債	15,819	17,188	1,369
固定負債	7,301	7,515	214
負債合計	23,120	24,703	1,583
純資産合計	4,097	4,335	237
負債純資産合計	27,218	29,039	1,821

キャッシュ・フロー計算書の概要

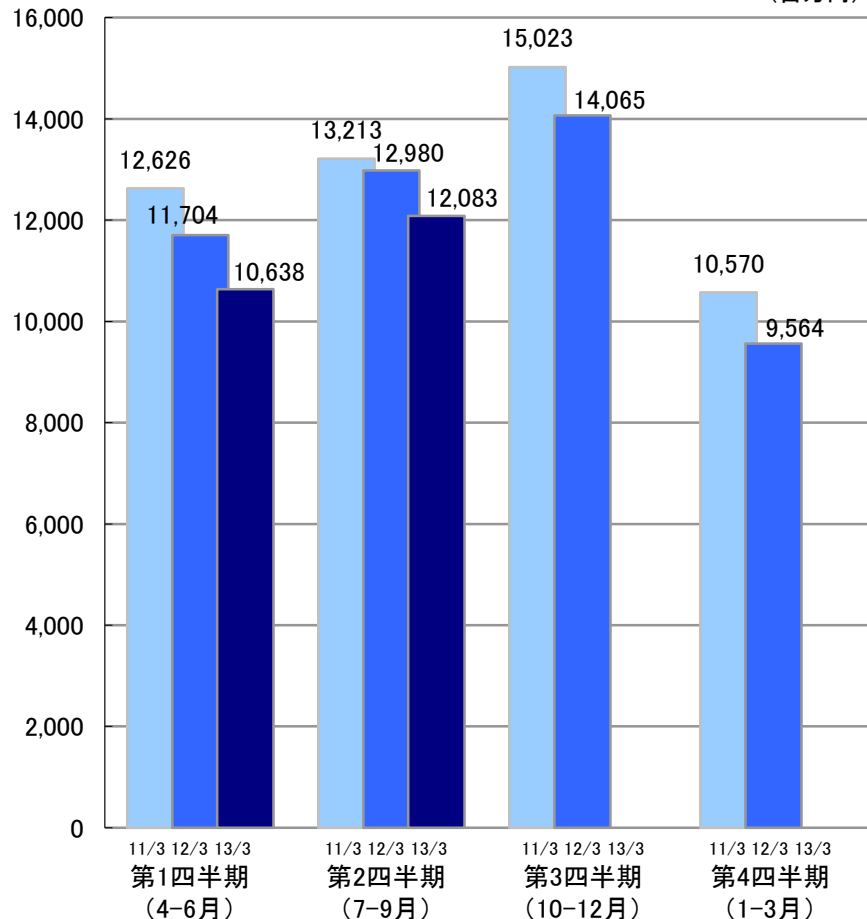
(単位:百万円)

	2012年3月期 第2四半期累計	2013年3月期 第2四半期累計	
			前年増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲57	▲63	▲5
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲204	▲467	▲263
フリー・キャッシュ・フロー	▲262	▲530	▲268
財務活動によるキャッシュ・フロー	522	275	▲247
現金及び現金同等物の増減額	259	▲255	▲515
現金及び現金同等物の期首残高	1,845	2,749	903
現金及び現金同等物の期末残高	2,105	2,494	388

四半期売上高の推移

■ 2011年3月期 ■ 2012年3月期 ■ 2013年3月期

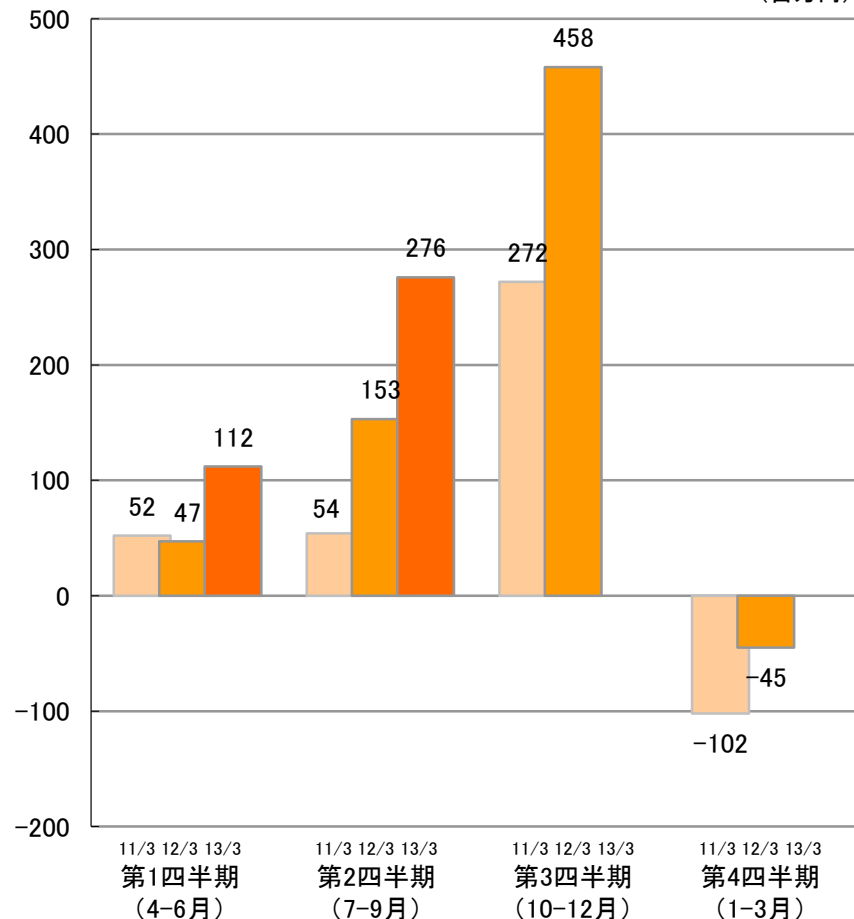
(百万円)



四半期営業利益の推移

■ 2011年3月期 ■ 2012年3月期 ■ 2013年3月期

(百万円)

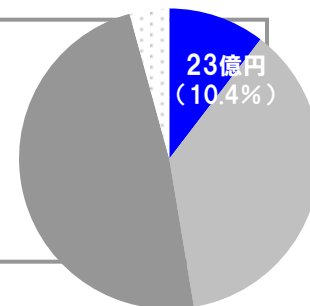


概況：魚肉ねり製品市場の縮小傾向のなか、数量減少・単価下落により減収減益

水産食品事業

売上高 23億61百万円（前期比11.0%減）

営業利益 64百万円（前期比34.0%減）



2013年3月期 第2四半期の状況

水産食品

- ・市場の縮小傾向のなか、
 - 数量減少、販売単価の下落による減収
 - 2012年11月から生産ラインのスリム化に着手

機能食品

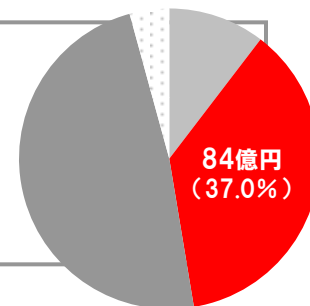
- ・市場拡大傾向のなか、売上拡大により増収増益
- ・エラスチンの靱帯改善機能を確認。新たなアプローチを開始
 - … 商品開発に注力
- ・高齢者向けソフト食「ソフミート」
 - … 異業種と共同でソフト食セミナーを実施。売上拡大を図る。前期比117%
- ・和菓子およびゼリーの売上拡大
 - … 委託先生産ラインを増設。前期比112%

概況：減収となったものの採算性重視の取組みにより増益

畜産食品事業

売上高 84億 2百万円（前期比8.0%減）

営業利益 1億 10百万円（前期比59.2%増）



2013年3月期 第2四半期の状況

食肉加工品

- ・ 受託生産数量減少により予算未達成
- ・ 関東地区については、既存得意先の取り組み強化、自社販売ルートの開拓を実施

食肉

- ・ 豚肉・牛肉の販売数量は減少したものの、採算性を重視した結果、利益率が改善
- ・ 牛肉は昨年7月の暫定規制値を超える放射性物質が検出されて以降、価格低迷が続く

調理食品

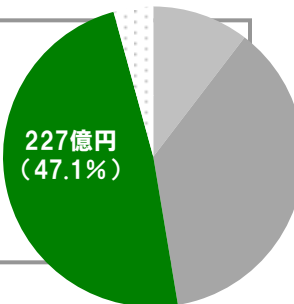
- ・ 惣菜などの販売が好調に推移し、販売単価が上昇したことにより増収

概況：生産効率の改善による原価低減等により増益

飼料事業

売上高 109億88百万円（前期比7.2%減）

営業利益 6億73百万円（前期比26.9%増）



2013年3月期 第2四半期の状況

養魚用飼料

- ・ 販売数量は堅調に推移したものの販売単価の下落により減収
- ・ 海外への飼料拡販により輸出増加

水産物

- ・ 鰻相場の高値安定により、委託事業の利益改善
- ・ 活魚は需要の落ち込みにより引き続き厳しい状況

畜産用飼料

- ・ 下関工場での畜産用飼料製造中止(6月末)

畜産物

- ・ 「赤鶏さつま」を中心とした販売に取り組むものの、市況低迷により減収

機能食品の拡大

ソフミート(ソフト食)

高齢者が増える国内市場において、ソフト食を開発・販売。
咀嚼困難な方の為の新しい介護食として拡大。

和菓子

和菓子としての完成度の高さだけでなく、鉄分・カルシウムを配合した保健機能食品、栄養機能食品として販売。

→ 委託先生産ラインを増設、10月23日稼動開始

エラスチン

魚類由来の有効成分を抽出。ドリンク、パウダー、サプリメント、
他食品に配合することで素材としての可能性を追求。

素材としての可能性

美容関連素材：皮膚機能改善、向上(シワ、弾力性など)

循環器対応素材：血管機能の改善、向上

※ロコモティブシンドローム関連素材：靭帯、腱などの損傷予防

※ロコモティブシンドロームとは、主に加齢による運動器の障害のため、移動能力の低下をきたし、
要介護となる危険の高い状態をさし、足腰の骨、関節、筋肉、靭帯、腱などの劣化が歩行困難を
もたらす運動器症候群のことを言います。



▲ 和菓子のラインナップ(一例)



▲ 増設した和菓子ライン

ハラル食品事業の展開

2010年12月

合弁会社OMAKANE SDN. BHD. 設立

2012年 4月

マレーシアでハラルソーセージの現地生産・販売を開始

2012年9月下旬

→ 本格生産を開始。量販店への配荷を開始。

→ 3年後には、売上高20億円を目指す

ハラル食品(イスラム食品)とは、
イスラム法の下では、加工や調理に関して厳格な作法が要求
されます。イスラム法が遵守された食品がハラル(「許された」
という意味)とされます。



▲ 専用スペースを確保した売り場展開



▲ 現地で稼働した生産ライン



▲ 量販店でのデモンストレーション販売の様子

(百万円)

	2012年3月期 実績	2013年3月期			
		第2四半期累計実績	前年増減	通期計画	前年増減
売上高	48,314	22,722	▲1,962	45,800	▲2,514
営業利益	614	388	187	590	▲24
経常利益	560	398	192	490	▲70
当期純利益	▲894	403	274	360	1,254

通期業績予想について

当初計画から変更ありません。

- ・ 第2四半期累計期間においては、採算性重視、生産効率改善、コスト削減が奏功して計画以上の増益
- ・ 第3四半期以降は原材料価格の高騰が見込まれるため、当初計画通りの着地を予想

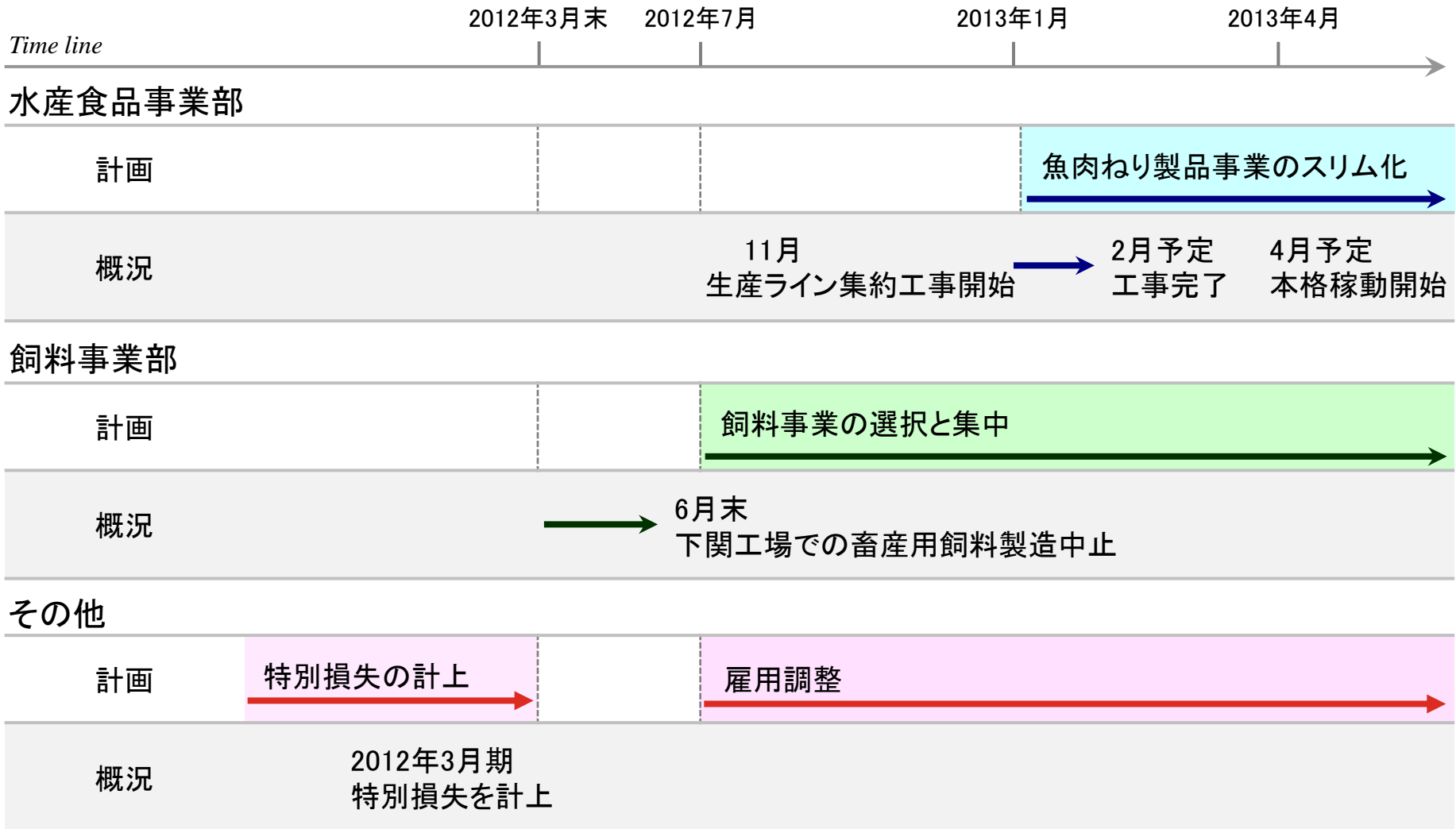


II

2カ年経営計画の進捗状況

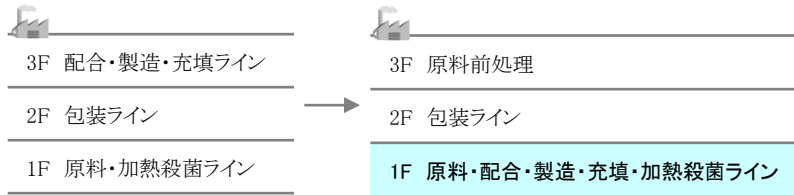
2カ年経営計画の進捗状況

2カ年経営計画に沿い、下関飼料工場での畜産用飼料製造を中止。水産食品における生産ライン集約工事に着手。計画通りの進捗



食品下関第一工場の取り組み

魚肉ねり製品の生産ライン集約



POINT

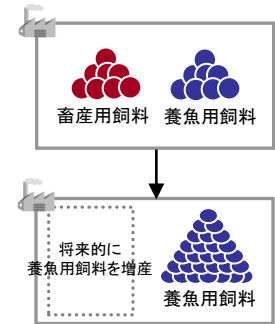
- ・ 生産ライン短縮による生産性向上
- ・ 生産数量適正化による固定費削減

2012年11月～2013年2月まで生産ライン集約工事
2013年4月から本格稼働を計画

飼料下関工場の取り組み

畜産用飼料の製造中止

養魚用飼料への特化



POINT

- ・ 採算重視の製品選択＝固定費減
- ・ 将来的に養魚用飼料を拡大

2012年6月末 畜産用飼料の製造中止

III

参考資料：2カ年経営計画（抜粋）

経営理念

「売り手によし、買い手によし、世間によし、三方よし」を規範とし、「安全・安心」で「良質」な製品を提供することを通じて、豊かな食文化の実現に貢献する。

経営ビジョン

1. 経営資源の選択と集中により構造改革を進め、収益基盤の改善を図る。
2. 安定的な利益確保に向けて構造強化を図り、持続的な事業発展を目指す。

基本方針

可能な限りスリムで生産性の高い体制を構築することにより収益力を回復し、コスト競争力を確保することを基本戦略とする。

「構造改革」

対象工場の最適化により固定費の大幅削減を行う。ライン集約・要員削減を行い、一旦生産数量を落として収益基盤の改善を図る

「コスト削減」

将来的には改めて売上げ拡大を目指すものとする。生産部門においては固定費を増加させないように管理し生産力を高める。今後、コスト競争力と営業強化をもって利益増加を図る。

再構築対象

- ・ 食品下関第一工場
- ・ 飼料下関工場
- ・ 雇用調整(全社規模)

「選択と集中」「スリム化」を通じ、コスト競争力を確保

水産食品事業

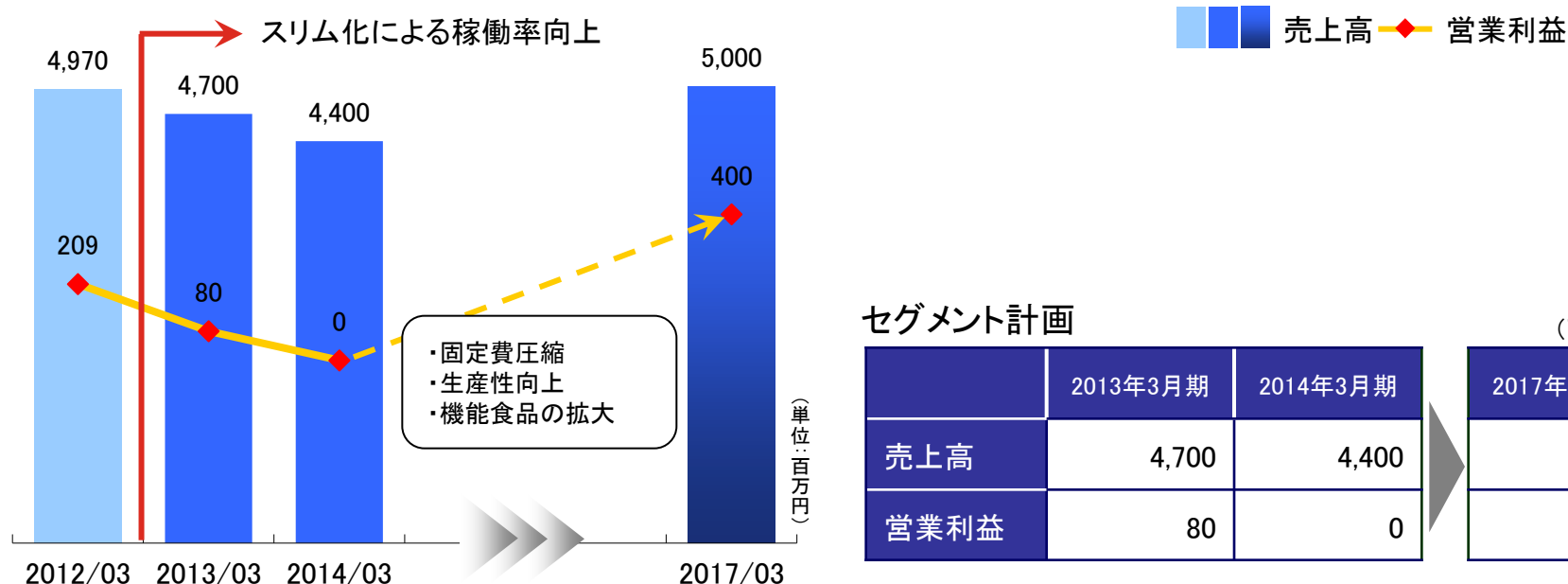
重点施策

- ・ 下関第一工場の生産ライン集約
- ・ 生産数量の適正化
- ・ 機能食品の拡大

魚肉ねり製品事業のスリム化

固定費圧縮・効率性向上

数値目標



セグメント計画

	2013年3月期	2014年3月期	2017年3月期
売上高	4,700	4,400	5,000
営業利益	80	0	400

(百万円)

水産食品事業

アクションプラン

魚肉ねり製品事業のスリム化

魚肉ねり製品事業は成熟事業と捉え、今後の市場規模縮小に備えてスリム化を行う。
また、事業構造転換の過渡期として数量圧縮へ前向きに取り組み、アイテム削減と効率化により利益確保を目指す。

- ・ 下関第1工場の生産ライン集約による効率化
- ・ 生産数量の引き下げによる規模適正化
- ・ 固定費の圧縮
 - 市場規模の縮小と設備老朽化への対応
 - 最適な生産体制の構築

機能食品の拡大

市場の拡大を背景として、機能性食品素材や高齢者向け食品などの売上拡大、新商品開発に注力。

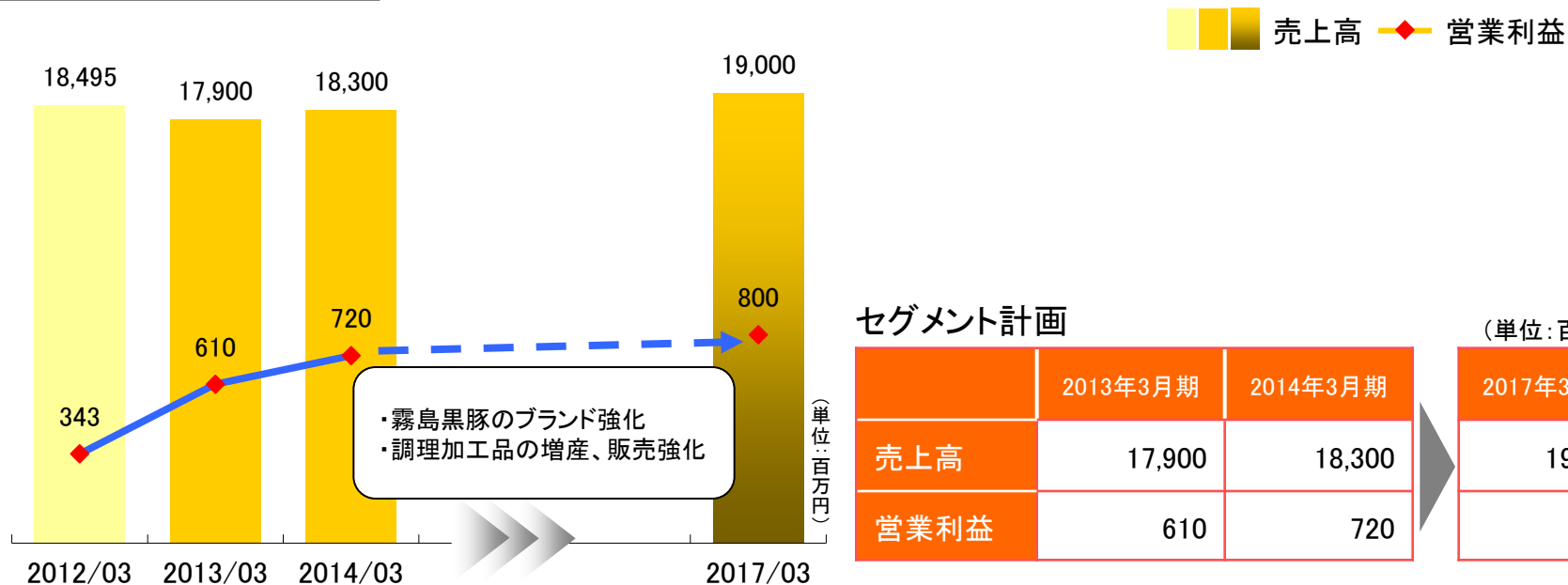
- ・ 関東・関西エリアを優先して拡販強化
- ・ 機能性素材(エラスチン・アスコフィラン等)のエビデンス構築による新市場の創出
- ・ 高齢者食、保健機能食品(ソフミート、和菓子)の販売拡大
 - 和菓子ライン増設による販売加速
 - 在宅介護市場への参入

畜産食品事業

重点施策

- ・ 霧島黒豚のブランド強化
- ・ 調理加工品の増産、販売体制の強化

数値目標



セグメント計画

(単位:百万円)

	2013年3月期	2014年3月期	2017年3月期
売上高	17,900	18,300	19,000
営業利益	610	720	800

畜産食品事業

アクションプラン

消費動向の変化に迅速に対応し、収益力の強化を図る。

霧島黒豚のブランド強化

- ・ チルド販売の強化による安定利益の確保
- ・ 採算性を重視した販売強化

調理加工品の増産、販売強化

- ・ 林兼フーズ第二工場の全面リニューアル完了による加熱調理食品の生産能力拡大
→ これに伴う当社他工場、協力工場との連携強化による生産体制の構築
- ・ 量販店惣菜部門および外食業態向けへの展開強化

飼料事業

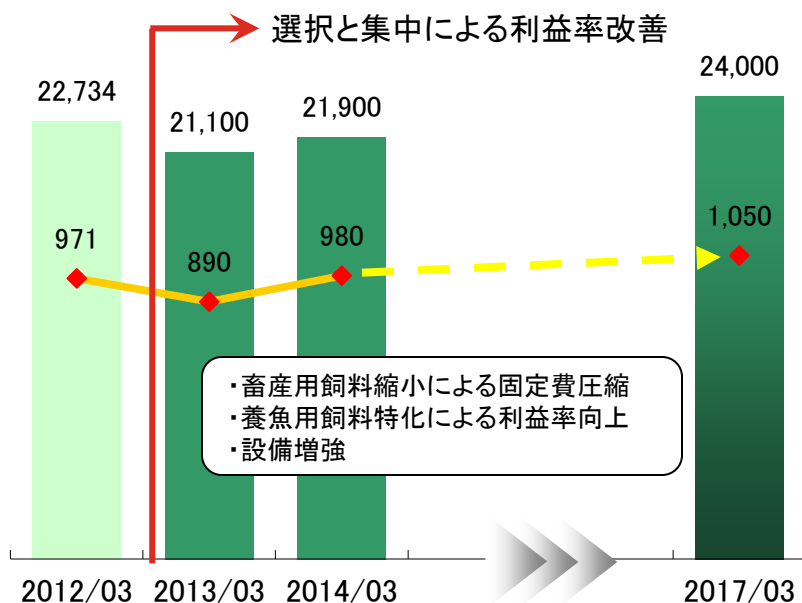
重点施策

飼料事業の選択と集中

- ・ 下関工場での畜産用飼料の製造中止
- ・ 養魚用飼料製造に特化する

養魚用飼料拡大のための増強へ

数値目標



セグメント計画

	2013年3月期	2014年3月期	2017年3月期
売上高	21,100	21,900	24,000
営業利益	890	980	1,050

(百万円)

飼料事業

アクションプラン

下関工場での畜産用飼料の製造中止(6月)

養魚用飼料の製造販売に経営資源を集中させることで収益体制の再構築に取り組む。

- ・下関工場での畜産用飼料の製造は中止し他社へ製造委託 → 養魚用飼料製造に特化
- ・志布志飼料株式会社(当社関連会社)での畜産用飼料製造は継続

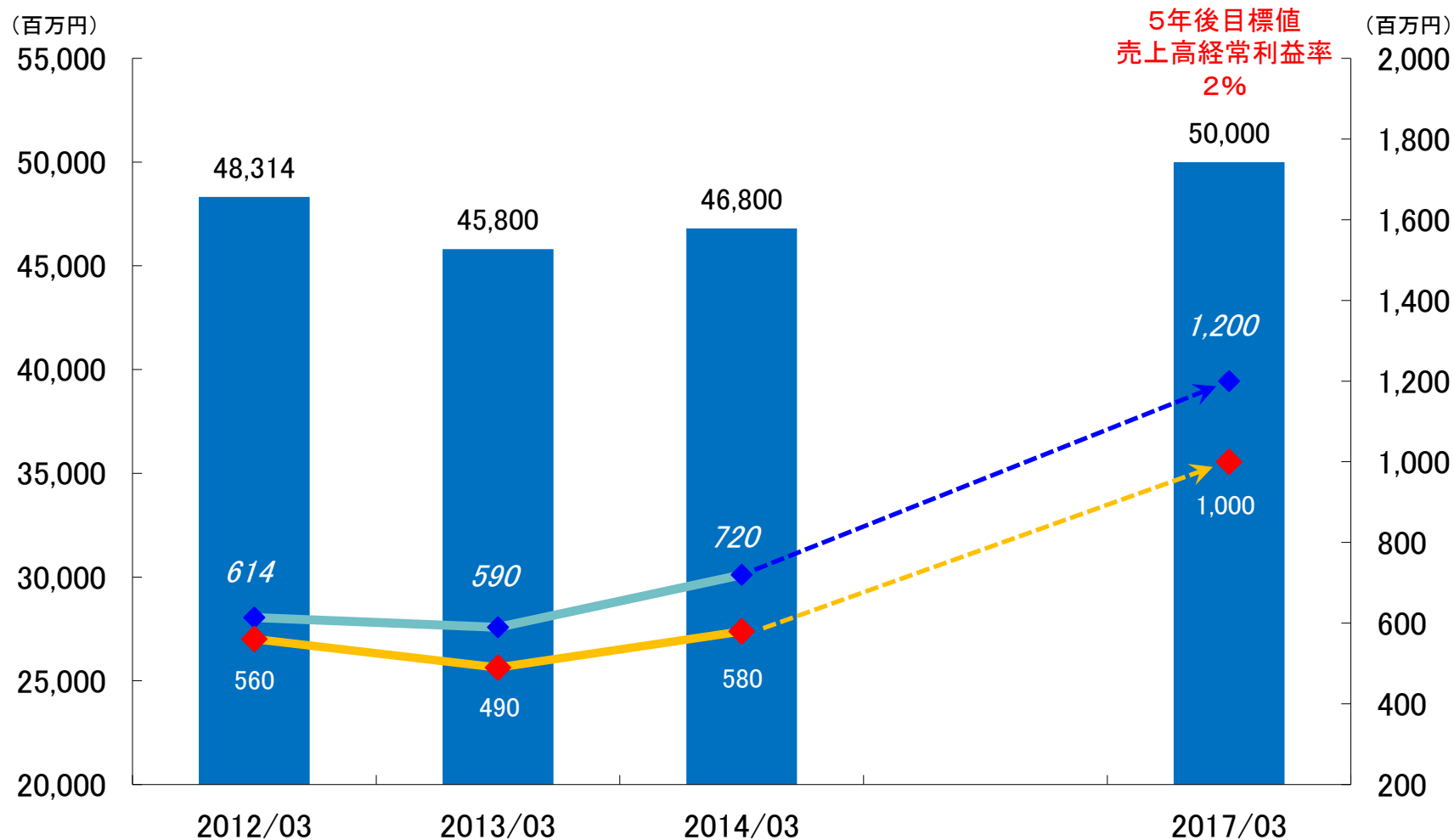
養魚用飼料への特化

養魚用飼料に特化することで、安定的な数量と利益を確保。

同時に、当社の技術を活かした差別化できる新商品の開発を推進することで将来的な収益源を確保する。

- ・設備増強
- ・受託製造の拡大
- ・マグロ用飼料などオンリーワン技術飼料の拡販
- ・魚粉事情に価格や成育が影響されにくい新時代飼料の普及・定着、新魚種用の開発

■ 売上高(左軸) ◆ 営業利益(右軸) ◆ 経常利益(右軸)



(百万円)

	2012年3月期実績	2013年3月期計画	2014年3月期計画
売上高	48,314	45,800	46,800
水産食品事業	4,970	4,700	4,400
畜産食品事業	18,495	17,900	18,300
飼料事業	22,734	21,100	21,900
その他の事業	2,114	2,100	2,200
営業利益	614	590	720
水産食品事業	209	80	0
畜産食品事業	343	610	720
飼料事業	971	890	980
その他の事業	168	140	140
消去又は全社	▲1,078	▲1,130	▲1,120
経常利益	560	490	580
当期純利益	▲894	360	400



林兼産業株式会社

本資料で記述している将来予測および業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

IRお問い合わせ先

林兼産業株式会社 管理本部総務部

TEL 083-266-0210

IRサイト <http://www.hayashikane.co.jp/ir/index.html>